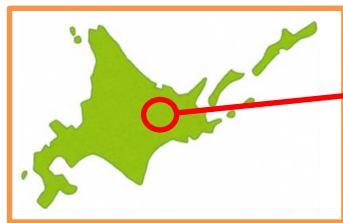


取組の概要

- 計画作成主体：北見市農業再生協議会
 対象品目：大豆（産地面積 369.22ha）
 主な取組主体：端野町大豆刈取組、(株)イッパ アグリシステム、
 緋牛内大豆生産組合、三区コンバイン組合
 成果目標：販売額の10%以上の増加
 基準（H26年度）25,312円/10a
 目標（H32年度）29,571円/10a
 導入施設等：生産支援事業（機械リース）
 （コンバイン 6台）



北海道
北見市
端野地区

推進体制

- 北見市
- きたみらい農協
- 農業改良普及センター

- 北見市農業再生協議会
- ①計画の策定・管理
 - ②取組計画への助言

指導・助言

情報共有

- 協議会と取組主体との情報共有（取組状況等）
- 行政機関（北見市）及びJA等によるサポート体制

- 取組主体（生産組合等）
- ①取組計画の作成
 - ②取組実施 等

地域における独自の取組

〈主な取組〉

- JAきたみらい、豆類振興会、普及センター等により技術情報の定期発信、出向く営農技術指導など連携した活動により生産性の向上を図る

ポイント

【取組の主題(テーマ)または課題】

戸当たり作付面積が拡大する中、労働省力的作物の小麦が過作となり、適正な輪作体系の維持が困難であるほか、実需者ニーズに即した高まる大豆の作付意欲に対応した収穫体系の確立が急務の状況にある。

このことから、適期収穫体制の構築を目的に収穫機の導入と共同収穫組織の確立を図り、品質向上等を目指す。



【産地の体質強化に向けた方策】

- ①作付面積の増加と適期収穫体制の確立を図るため、収穫機の導入を支援

期待される事業効果

【事業実施による直接効果】

- ① 適期収穫体制の確立により品質が向上
- ② 小麦から大豆への作付転換による適正な輪作体系の確立

【事業実施による間接効果】

- ① 実需者ニーズに即した用途別品種の安定的生産の確立



販売額の増加

～大豆の販売額～

